

読むこと 指導のポイント

(その1)

～New Crown English Series USE Read を使って～

New Crown の教科書 USE Read の指導をとおして、福島県の生徒の課題の1つである「読み解力」を育成しましょう。

USE Read を使って身に付ける力は何か？



物語のあらすじや説明の大切な部分などを正確に読み取ること。

一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分のみにとらわれたりすることなく、書き手の伝えようとするこことを正確に読み取ること。

(学習指導要領解説より)

※ 教科書 GET とは指導法、扱い方を変える必要があります。

大意把握させるポイントは？



1 生徒が自分の力でじっくり長文を読み取る時間を確保

2 トップダウンの読み解き（全体的な読み→細部の読み）

New Crown の USE Read には、学年に応じ長い英文が扱われています。「大意を把握する力」を全員の生徒に身に付けさせるチャンスです。

大意を把握する前に、一文一文の訳の確認等から始めてしまうと「大意を把握する力」が育ちません。Pre-Reading活動（スキーマを活性化させる活動等）後は、全体をひととおり読む時間を確保しましょう。そして、読み取りのポイントを与えるなどして、繰り返し英文に向き合わせましょう。

後半は、細かい点の確認などをしましょう。

「分からぬ」と生徒が感じる授業は

- × 内容を重視するあまり細部がおろそかな授業
- × 細かい説明だけに終始した授業

指導の流れは？

USE Read ページにあるタスク

それが言語活動となるようにしましょう。
目的に応じ、ペア・グループ活動などを取り入れるとよいでしょう。

新出語句確認は、生徒の実態や資料にもよりますが、Pre-Readingとして行うのが一般的です。

Pre-Reading → In-Reading → Post-Reading

を基本とし、各学校の実態に応じ取り組んでほしいと思います。

※ 全体の訳などは、別プリントなど用意して最後に渡すのがよいでしょう。